

西洋の石造灯台構築技術と日本
古来の築城技術が集約された

いずもひのみさき 出雲日御碕灯台



島根県出雲市

島根県北東部にあたる島根半島の西端の岬「日御碕」は、石英粗面岩から成る隆起海食台地で、断崖や岩礁と日本海が美しい景観をつくりだしています。この岬に立つ「出雲日御碕灯台」は、犬吠埼灯台・神子元島灯台・美保関灯台・姫埼灯台と並び、その歴史や文化的な価値の高さから国際航路標識協会（IALA）が提唱した世界灯台 100 選の一つに選ばれています。

明治 32 年 7 月、浜田・境の両港が開港場（外国貿易港）に指定されたことで、日本海を行き交う船舶往来の活発化と、冬季の季節風や吹雪が船舶の航行に支障をきたすことが予想され、大型沿岸灯台の必要性が高まりました。このため明治 33 年（1900）、島根半島の西端に日御碕灯台が計画され、同 36 年 4 月 1 日に無事点灯の日を迎えたわけです。

すでに明治 31 年初点灯された美保関灯台はフランス技師によるものでしたが、日御碕灯台は石橋^{いぬぼうさき}絢彦^{みことしま}が手がけた初の日本人による設計でした。このため、西洋の石造灯台構築技術に加えて日本古来の築城技術も導入されています。地盤を平らに切り、根切りを施してコンクリート基礎とし、灯塔の外壁は切石積み、内部はレンガ造りで、外壁と内壁の間には意図的に空間が設けられ、特殊な二重殻構造（内外部咬接相持し、蛇腹石及び冠石を累積してその上に胴壁の据え付け）で、石造積層の累積技術の優秀さにおいて到達点と評されています。これは海外では類を見ない珍しい造りで、地震国日本ならではの工夫といわれています。

灯塔は美保関の海岸などから採取された凝灰質砂岩で、海石とも呼ばれる森山石を用いています。基礎から頂部まで 43.65 m という灯塔として日本一の高さは、日御碕が低い台地であるという立地条件から、光が遠くまで届くように設計されたためです。ちなみに、灯台の光度は 480,000 カンデラ、光達距離は 21 海里（約 39km）ということであれば、温泉津の沖まで届くことになります。外壁の内側に巡らされた螺旋階段を 163 段上ると、高さ 40 m の展望台から絶景が広がります。技術と美しさを供えた出雲日御碕灯台は、平成 25 年（2013）正門及び石塀ともに国の登録有形文化財となっています。



日本一の高さを誇る白亜の灯台「日御碕灯台」
世界灯台 100 選の一つ

■位置図



灯台の光度は、480,000 カンデラ・光達距離は 21 海里（約 39km）



灯塔の外壁は切石積み、内部はレンガを積み立てた二重殻構造。163 段のらせん階段で上部に上がる



日御碕はおおよそ 1600 万年前に流出した溶岩の冷却収縮によってできた柱状節理を見ることができる